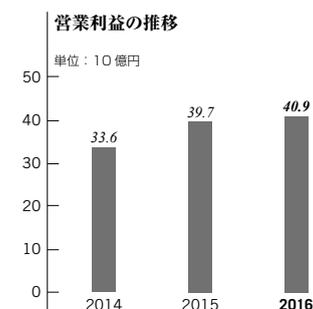
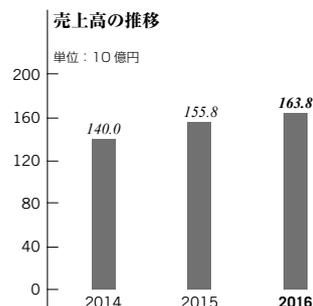
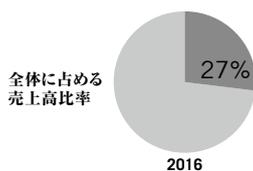


## セグメント情報

### セグメント別業績

#### 機械加工品事業



当会計年度の機械加工品事業の売上高は163,811百万円となり、前会計年度に比べ8,026百万円(5.2%)の増収となりました。営業利益は、40,855百万円と前会計年度に比べ1,132百万円(2.9%)の増益となり、売上高営業利益率は24.9%と前会計年度に比べ0.6ポイント低下しました。

主力製品であるミニチュア・小径ボールベアリングは、自動車やファンモーター向けを始めとして高級消費財向けを中心に幅広い分野で旺盛な需要が続き、外部販売数量は月平均1億5千5百万個と、前期比7%増となりました。収益面でも、増益となりました。

ロッドエンドベアリング&スフェリカルベアリングは、民間航空機生産が堅調な事業環境を受けて、売上高は増加しましたが、利益はほぼ横ばいでした。

ピボットアッセンブリーは、HDD市場規模縮小の影響を受け売上が減少しましたが、生産効率の改善が進み、営業利益は増益となりました。

#### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
ミニチュア・小径ボールベアリング	各種小型モーター、家電、情報通信機器、自動車、産業機械	約60%
ロッドエンド&スフェリカルベアリング	航空機	約50%
ファスナー	航空機、自動車	—
ピボットアッセンブリー	HDD	約70%

注：市場占有率は数量ベース。ロッドエンド&スフェリカルベアリングのみ金額ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しています。

#### 今後の取り組み

ボールベアリング事業では、歩留まり向上と合理化による原価低減を継続して行っています。また、製造の原点への回帰をテーマとして事業の強化を図りながら、基礎技術開発部門の強化も図っています。今後につきましては、2015年5月に発表した新「5本の矢」戦略の第一の矢に掲げた月平均外部販売数量1億8千万個の早期達成に向けて拡販に努めていきます。

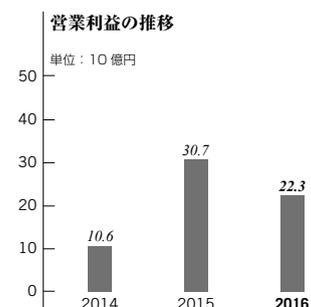
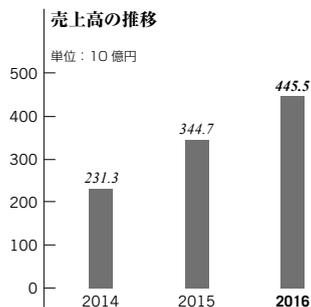
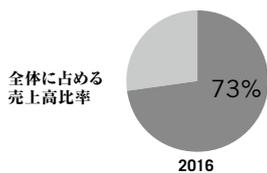
ロッドエンド・ファスナー事業では、航空機に関連するメカニカルパーツへの旺盛な需要を受けて、日本及びタイにおける部品生産能力を大幅に拡大するとともに、全世界ベースで製造及び販売拠点の連携を強化していきます。また2013年7月に買収したCEROBEAR社によるシナジーを目指し、セラミック製航空機部品の開発にも注力していきます。

ピボットアッセンブリー事業では、歩留まり向上など継続的な原価低減を図っています。PC需要の低迷とHDD市場の縮小が続くと予想されますが、ピボットアッセンブリーでの当社の高いシェアと、主要構成部品であるミニチュア・ボールベアリングとのシナジーを生かしつつ、サーバー用などの高付加価値製品での高い競争力を維持することで、収益水準の維持に努めてまいります。

#### 主要製品

ボールベアリング ロッドエンドベアリング スフェリカルベアリング ローラーベアリング プッシング  
ピボットアッセンブリー メカニカルアッセンブリー 航空機用ネジ類 自動車用ネジ類

## 電子機器事業



当会計年度の売上高は445,467百万円と前会計年度に比べ100,742百万円(29.2%)の大幅な増収となりました。営業利益は22,336百万円と前会計年度に比べ8,412百万円(27.4%)の減益となりました。売上高営業利益率は5.0%と前会計年度より3.9ポイント低下しました。

液晶用LEDバックライトは既存顧客の新型スマートフォン向けにおいて外部購入部品の増加による販売単価上昇を主要因に増収となりましたが、収益面ではスマホ市場での客先の減産を受けた出荷数量減少もあり、減益となりました。

モーターは、自動車向けなどの需要増加を受けて売上が伸びたほか、これまでの固定費削減策の効果により収益性も改善しました。

計測機器はSartorius Mechatronics T&Hグループの買収効果に加えて自動車向けを中心とする既存事業も伸び、大幅な増収増益となりました。

### 主要製品群、市場、市場での位置付け

製品群と主要製品	主要市場	当社の世界市場占有率 <sup>(注)</sup>
液晶用LEDバックライト	中高級スマートフォン、携帯電話、自動車、デジタルカメラ、デジタル携帯端末	約25%
モーター (ステッピングモーター、HDD用スピンドルモーター、DCブラシレスモーター、DCブラシ付モーター、ファンモーター、精密モーター)	PC・サーバー、HDD、情報通信機器、家電、自動車、産業機械、OA機器	製品により約2～70%
計測機器	産業機器、自動車、PC	—

注：市場占有率は数量ベース。当社で独自に入手した情報及び市場調査会社の情報を基に、当社が対象とする市場における占有率を推定しています。

### 今後の取り組み

液晶用LEDバックライトは、スマートフォンの高級志向が進む中で、電池容量の確保、高精細画面化、軽量化に必要な超薄型で高効率の液晶用LEDバックライトの積極的な拡販及び新製品の投入を進めていきます。既にタイ、カンボジア拠点での大幅な生産能力増強投資が完了しており、圧倒的な生産能力と生産性の実現を目指します。また、カンボジアにおけるスマートシティ向けLED街路灯や新型LED照明器具SALIOT(サリオ)、トンネル向け屋外LED照明等、当社の導光板技術や無線技術等の要素技術を融合した新製品の開発を進めており、新「5本の矢」戦略の第3の矢である照明器具関連製品の拡販を図ります。

モーターは、引き続き原価低減、構造改革を進め、さらなる収益改善を目指します。

計測機器については、単なるハカリとしてではなく、計測機器のセンサーとしての機能を再確認した事業戦略に基づき、医療・介護関連市場、ロボット分野、橋梁などのインフラ構造など新しい分野への展開を図りつつ、買収したSartorius Mechatronics T&Hグループとのシナジーを最大化することで、売上を早期に年間500億円程度に引き上げるよう努めていきます。

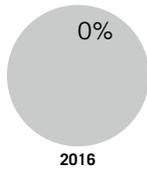
### 主要製品

液晶用LEDバックライト 複合製品 ステッピングモーター DCブラシレスモーター DCブラシ付モーター  
ファンモーター HDD用スピンドルモーター 精密モーター 計測機器

## その他の事業

当会計年度の売上高は536百万円と前会計年度に比べ370百万円(222.5%)の増収となりました。営業損失は125百万円と前会計年度に比べ96百万円の悪化となりました。

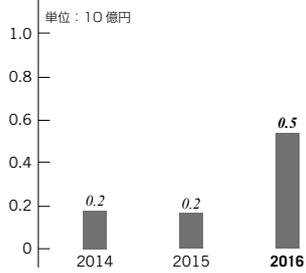
全体に占める  
売上高比率



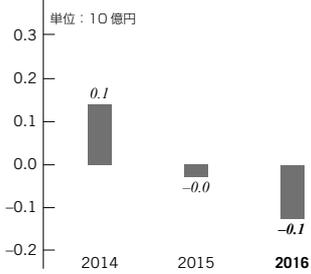
## 主要製品

自社製機械

売上高の推移



営業利益(損失)の推移



## 調整額

上記以外に、各セグメントに帰属しない全社費用等 11,628百万円を調整額として表示しています。前会計年度の調整額は10,341百万円でした。